

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2023.4.10-16

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:1 サウルが死んだとき、ダビデはアマレク人を打ち破って帰って来ていた。その後ダビデは二日間、ツィクラグにとどまっていた。

1:2 すると三日目に、見よ、一人の男がサウルのいた陣営からやって来た。衣は裂け、頭には土をかぶっていた。彼はダビデのところに来ると、地にひれ伏して礼をした。

1:3 ダビデは言った。「どこから来たのか。」彼は言った。「イスラエルの陣営から逃れて来ました。」

1:4 ダビデは彼に言った。「状況はどうか。話してくれ。」彼は言った。「兵たちは戦場から逃げ、しかも兵たちの多くの者が倒れて死にました。それに、サウルも、その子ヨナタンも死にました。」

1:5 ダビデは、報告をもたらしたその若い者に言った。「サウルとその子ヨナタンが死んだことを、どのようにして知ったのか。」

1:6 報告をもたらしたその若い者は言った。「私は、たまたまギルボア山にいましたが、見ると、サウルは自分の槍にもたれ、戦車と騎兵が押し迫っていました。」

1:7 サウルが振り返って、私を見て呼びました。私が『はい』と答えると、

1:8 私に『おまえはだれだ』と言いましたので、『私はアマレク人です』と答えますと、

1:9 『さあ、近寄って、私を殺してくれ。激しいけいれんが起こっているが、息はまだ十分あるから』と言いました。

1:10 私は近寄って、あの方を殺しました。もう倒れて生き延びることができないと分かったからです。私は、頭にあった王冠と、腕に付いていた腕輪を取って、ここに、あなた様

のところに持って参りました。」

1:11 ダビデは自分の衣をつかんで引き裂いた。ともにいた家来たちもみな、そのようにした。

1:12 彼らは、サウルのため、その子ヨナタンのため、また【主】の民のため、イスラエルの家のために悼み悲しんで泣き、夕方まで断食した。サウルらが剣に倒れたからである。

1:13 ダビデは自分に報告したその若い者に言った。「おまえはどこの者か。」彼は言った。「私はアマレク人で、寄留者の子です。」

1:14 ダビデは彼に言った。「【主】に油注がれた方に手を下して殺すのを恐れなかったとは、どうしたことか。」

1:15 ダビデは家来の一人を呼んで言った。「これに討ちかけ。」彼がその若い者を討ったので、若い者は死んだ。

1:16 ダビデは若い者に言った。「おまえの血は、おまえの頭上に降りかけ。おまえ自身の口で、『私は【主】に油注がれた方を殺した』と証言したのだから。」

サムエルⅠでは、サウルの死体はさらされた後に焼かれたとあります。この若者の話は事実と食い違いますが。彼は話のうそで、単にダビデから褒美をもらいたかったのです。ダビデはサウルから命を狙われていたので、サウルに自分とどめを刺したとなれば喜ばれると思ってのことでした。

しかし「主に油注がれた方」を敬うというダビデの姿勢は一貫していました。彼はうそによって褒美をだまし取るために、神の選びをさげすんだ者を罰したのです。

自分の命を狙った者の不幸をここまで嘆き悲しめるというのは、ダビデが主の選んだ者を愛した

思いが純粋であったことがわかります。

純粋な信仰を持った人の心を理解し、また自分自信も純粋な、すなわち主の思いをそのまま持った者になりたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 火曜

Ⅱ サムエル



1:17 ダビデは、サウルのため、その息子ヨナタンのために、次の哀歌を歌った。

1:18 これはユダの子らに弓を教えるためのもので、『ヤシャルの書』にまさしく記されている。

1:19 「イスラエルよ、君主はおまえの高き所で殺された。ああ、勇士たちは倒れた。

1:20 これをガテに告げるな。アシュケロンの通りに告げ知らせるな。ペリシテ人の娘らを喜ばせないために。無割礼の者の娘らが喜び躍ることがないために。

1:21 ギルボアの山よ。高原の野よ。おまえたちの上に、露は降りるな。雨も降るな。そこでは勇士たちの盾が汚され、サウルの盾に油も塗られなかったからだ。

1:22 殺された者の血から、勇士たちの脂から、ヨナタンの弓は退くことがなく、サウルの剣も、空しく帰ることがなかった。

1:23 サウルもヨナタンも、愛される、立派な人だった。生きていたときも死ぬときも、二人は離れることはなく、鷲よりも速く、雄獅子よりも強かった。

1:24 イスラエルの娘たちよ、サウルのために泣け。サウルは、紅の衣を華やかにおまえたちに着せ、おまえたちの装いに金の飾りをつけてくれた。

1:25 ああ、勇士たちは戦いのさなかに倒れた。ヨナタンはおまえの高き所で殺された。

1:26 あなたのために私はいたく悲しむ。私の兄弟ヨナタンよ。あなたは私を大いに喜び楽しませ、あなたの愛は、私にとって女の愛にもまさって、すばらしかった。

1:27 ああ、勇士たちは倒れた。戦いの器は失

せた。」

自分を敵対視して命を食い続けたサウルの死に際して、それを自分の権威の基盤には用いませんでした。むしろその死を悼む歌を公的にしてヤシャルの書に残されるようにして、イスラエルの民が氣力を失ったり混乱したりしないようにしました。また主が選ばれた王の名誉を守ることにあって、主へ信仰が損なわれないようにしたとも考えられます。

この世の価値観であったなら、はダビデはそのようなことはせず、むしろサウルの間違いや悪を暴いて、自分の善良さと対比させて、人心を自分に付けるところです。しかしダビデは神様の御前でその道を選ばなかったのです。サウルの悪評を利用するなら神様の祝福はなく、神様は即刻ダビデから離れたことでしょう。

ダビデはヨナタンだけでなく、サウルでさえも同じ親子として大いに愛しています。このように主のみ心によって人を建て上げるなら、たくさんの良さが思い浮かぶのです。人を褒められないのは、その思いが純粋ではないからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 水曜

Ⅱ サムエル



2:1 この後、ダビデは【主】に伺った。「ユダの町のどれか一つへ上って行くべきでしょうか。」【主】は彼に「上って行け」と言われた。ダビデは、「どこに上ればよいでしょうか」と聞いた。主は「ヘブロンに」と言われた。

2:2 ダビデは、二人の妻、イズレエル人アヒノアムと、カルメル人ナバルの妻であったアビガイルと一緒に、そこに上って行った。

2:3 ダビデは、自分とともにいた人々を、その家族ごと連れて上った。彼らはヘブロンの町々に住んだ。

2:4 ユダの人々がやって来て、そこでダビデに油を注ぎ、ユダの家の王とした。ヤベシュ・ギルアデの人々がサウルを葬ったことが、ダビデに知らされたとき、

2:5 ダビデはヤベシュ・ギルアデの人々に使者たちを遣わし、彼らに言った。「あなたがたが【主】に祝福されるように。あなたがたは、あのような真実を尽くして主君サウルを葬った。

2:6 今、【主】があなたがたに恵みとまことを施してくださるように。あなたがたがそのようなことをしたので、この私もあなたがたに善をもって報いよう。

2:7 今、強くあれ。勇氣ある者となれ。あなたがたの主君サウルは死んだが、ユダの家は私に油を注いで、自分たちの王としたからだ。」

2:8 一方、サウルの軍の長であったネルの子アブネルは、サウルの子イシュ・ボシェテを連れてマハナイルに行き、

2:9 彼をギルアデ、アツシュル人、およびイ

ズレエル、そしてエフライムとベニヤミン、すなわち全イスラエルの王とした。

2:10 サウルの子イシュ・ボシェテは、四十歳でイスラエルの王となり、二年間、王であった。しかし、ユダの家だけはダビデに従った。

2:11 ダビデがヘブロンでユダの家の王であった期間は、七年六か月であった。

ダビデはもはや命を狙うサウルも死に、安心な状態でしたが、それで思うままに生きることはせずに、「主に伺って」の行動を決めました。苦しいときや不安なときに主を求めて、状況がよくなったら主を忘れるというような信者にはならないようにしましょう。

イシュ・ボシェテは逆で、自分を抑えるサウルがいなくなったと思うと、すぐに自分のチャンスと、主に聞くこともなく王になろうとしました。しかし「ダビデの家来たちに打ち負かされ」てしまったのです。

チャンスと見るや、すぐに願いを叶えようとするのは、神様を無視することであり、失敗のもとです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13日 木曜

Ⅱ サムエル



2:12 ネルの子アブネルは、サウルの子イシュ・ボシェテの家来たちと一緒にマハナイムを出て、ギブオンへ向かった。

2:13 一方、ツェルヤの子ヨアブも、ダビデの家来たちと一緒に出て行った。こうして彼らはギブオンの池のそばで出会った。一方は池の手前側に、もう一方は池の向こう側にとどまった。

2:14 アブネルはヨアブに言った。「さあ、若い者たちを出し、われわれの前で闘技をさせよう。」ヨアブは言った。「よし、そうしよう。」

2:15 ベニヤミンの側、すなわちサウルの子イシュ・ボシェテの側から十二人、ダビデの家来たちから十二人が順番に出て行った。

2:16 彼らは互いに相手の頭をつかみ、相手の脇腹に剣を刺し、一つになって倒れた。それで、その場所はヘルカテ・ハ・ツリムと呼ばれた。それはギブオンにある。

2:17 その日、戦いは激しさを極め、アブネルとイスラエルの兵士たちは、ダビデの家来たちに打ち負かされた。

2:18 そこに、ツェルヤの三人の息子、ヨアブ、アビシャイ、アサエルがいた。アサエルは野のかもしかのように、足が速かった。

2:19 アサエルはアブネルの後を追った。右にも左にもそれずに、アブネルを追った。

2:20 アブネルは振り向いて言った。「おまえはアサエルか。」彼は答えた。「そうだ。」

2:21 アブネルは彼に言った。「右か左にそれ、若い者の一人を捕らえ、その者からはぎ取れ。」しかしアサエルは、アブネルを追うのをやめず、ほかへ行こうとしなかった。

2:22 アブネルはもう一度アサエルに言った。「私を追うのはやめ、ほかへ行け。なぜ、私がおまえを地に打ち倒さなければならないのか。どうやって、おまえの兄ヨアブに顔向けができるというのか。」

2:23 アサエルはなおも拒んで、ほかへ行こうとしなかった。それでアブネルは、槍の石突きで彼の下腹を突いた。槍はアサエルを突き抜けた。アサエルはその場に倒れて、そこで死んだ。アサエルが倒れて死んだ場所に来た者はみな、立ち止まった。

2:24 しかしヨアブとアビシャイは、アブネルの後を追った。太陽が沈んだとき、彼ら二人はギブオンの荒野への道を通り、ギアハの反対側にあるアンマの丘までやって来た。

2:25 ベニヤミン人はアブネルに従って集まり、一団となって、一つの丘の頂に立った。

2:26 アブネルはヨアブに呼びかけて言った。「いつまでも剣が人を食い尽くしてよいものか。その果ては、ひどいことになるのを知らないのか。いつになったら、兵たちに、自分の兄弟たちを追うのをやめて帰れ、と命じるつもりか。」

2:27 ヨアブは言った。「神は生きておられる。もし、おまえが言い出さなかったなら、確かに兵たちは、明日の朝まで、それぞれ自分の兄弟たちを追うのをやめなかっただろう。」

2:28 ヨアブは角笛を吹いた。それで兵たちはみな立ち止まり、それ以上イスラエルの後を追わず、戦いを続けることはなかった。

2:29 アブネルとその部下たちは、一晩中アラバを通って行った。そしてヨルダン川を渡り、午前中歩き続けてマハナイムに着い

た。

2:30 一方、ヨアブはアブネルを追うのをやめて帰った。兵たちを全部集めてみると、ダビデの家来十九人とアサエルがいなかった。

2:31 ダビデの家来たちは、アブネルの部下であるベニヤミン人のうち三百六十人を討ち取っていた。

2:32 彼らはアサエルを運んで、ベツレヘムにある彼の父の墓に葬った。ヨアブとその部下たちは一晩中歩いて、夜明けごろヘブロンに着いた。

自分の野心のためにサウルの子であるイシュ・ボシェテを立てて、ダビデと戦ったアブネルは戦いに負けて、その結果360人の部下を失いました。一方ダビデが失ったのは20人でした。

主のご計画を無視して、自分の野心や願望を優先される時、主のみこころに叶った何か（または誰か）を戦うことになってしまいます。そして後には引けなくなってしまうのが常です。

その結果大きな損害を身に招くのです。アブネルの題度はダビデのそれとは正反対のものです。

自分の動機が主に思いで純粋に満たされているかどうか、どの思いが優って決断したのか、または継続しているのか、常に吟味する習慣を身に着けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど） ②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど） ③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか） ④この世にあって何を実践しますか？

14日 金曜

Ⅱ サムエル



3:1 サウルの家とダビデの家の間には、長く戦いが続いた。ダビデはますます強くなり、サウルの家はますます弱くなった。

3:2 ダビデにはヘブロンで子が生まれた。長子はイズレエル人アヒノアムによるアムノン。

3:3 次男はカルメル人ナバルの妻であったアビガイルによるキルアブ。三男はゲシュルの王タルマイの娘マアカの子アブサロム。

3:4 四男はハギテの子アドニヤ。五男はアビタルの子シェファテヤ。

3:5 六男はダビデの妻エグラによるイテレアム。これらの子がヘブロンでダビデに生まれた。

3:6 サウルの家とダビデの家が戦っている間に、アブネルがサウルの家で勢力を増していた。

3:7 サウルには、アヤの娘で、名をリツパという側女がいた。イシュ・ボシェテはアブネルに言った。「あなたはなぜ、私の父の側女と通じたのか。」

3:8 アブネルはイシュ・ボシェテのことはを聞くと、激しく怒って言った。「この私がユダの犬のかしらだとでも言うのか。今日、私はあなたの父サウルの家と、その兄弟と友人たちに真実を尽くして、あなたをダビデの手に渡さないでいる。それなのに今日、あなたは、あの女のことで私をとがめるのか。」

3:9 【主】がダビデに誓われたとおりのことを、もし私がダビデのために果たさなかったなら、神がこのアブネルを幾重にも罰せられるように。

3:10 それは、サウルの家から王位を移し、ダビデの王座を、ダンからベエル・シェバに至

るイスラエルとユダの上に堅く立てるということだ。」

3:11 イシュ・ボシェテはアブネルを恐れていたのに、彼に、もはや一言も返すことができなかった。

ダビデは有力者と婚姻関係を持ち、その勢力が拡大していることがわかります。一方、サウル家のイシュボシェテは神を無視して、一部においては王となりましたが、「サウルの家はますます弱くなった。」のです。

サウルの子であるイシュ・ボシェテの家来アブネルも、神を無視する人でした。彼は自分の悪い行いをイシュ・ボシェテから指摘されると、手の平を返したようにダビデの側につくような発言をしました。「主がダビデに誓われたとおりのことを」などと言っていますが、主のことを自分勝手に持ち出しているだけで、目的は自分中心です。

結局主は後に、そのような人間をダビデとミカルの再会に用いられました。その後彼は自分の罪ゆえ復讐されて死ぬことになるのです。

自分中心とそのために人や主の名を利用することの悲惨な結果を忘れてはなりません。主の御心を行いましょう。ダビデのように主の祝福があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 土曜

Ⅱ サムエル



3:12 アブネルはダビデのところに使者を遣わして言った。「この国はだれのものでしょうか。私と契約を結んでください。ご覧ください。私は全イスラエルをあなたに移すのに協力します。」

3:13 ダビデは言った。「よろしい。あなたと契約を結ぼう。しかし、条件が一つある。それは、あなたが私に会いに来るときは、まずサウルの娘ミカルを連れて来ること、そうでなければ私に会えないということだ。」

3:14 ダビデはサウルの子イシュ・ボシェテに使者を遣わして言った。「私がペリシテ人の陽の皮百をもってめとった、私の妻ミカルを返していただきたい。」

3:15 イシュ・ボシェテは人を遣わして、彼女をその夫、ライシュの子パルティエルから取り返した。

3:16 彼女の夫は泣きながら彼女の後を追ってバフリムまで来たが、アブネルが「行け。帰れ」と言ったので、彼は帰った。

3:17 アブネルはイスラエルの長老たちと話してこう言った。「あなたがたは、かねてから、ダビデを自分たちの王とすることを願っていた。

3:18 今、それをしなさい。【主】がダビデについて、『わたしのしもべダビデの手によって、わたしはわたしの民イスラエルをペリシテ人の手、およびすべての敵の手から救う』と言われたからだ。」

3:19 アブネルはまた、ベニヤミン人とじかに話し合った。それから、アブネルはまた、ヘブロンにいるダビデのところへ行き、イスラエルとベニヤミンの家全体が良いと思ってい

ることを、すべて彼の耳に入れた。

3:20 アブネルは二十人の部下とともにヘブロンにダビデのもとに来た。ダビデはアブネルとその部下のために祝宴を張った。

3:21 アブネルはダビデに言った。「私は、全イスラエルをわが主、王のもとに集めに出かけます。彼らがあなたと契約を結び、あなたが、お望みどおりに王として治められるようにいたしましょう。」ダビデはアブネルを送り出し、アブネルは安心して出て行った。

アブネルは自分勝手な動機でイシュ・ボシェテを裏切り、ダビデに着きました。勝手な者は人の心がわからないものです。かつて自分がヨアブの兄弟を殺したことや、それでヨアブが大きな悲しみを持っていたことを忘れて油断していたのでした。

彼はヨアブに殺されました。自分のことばかり考えて、自分のために生きる者は、結局自分の見方しかできずに、大きな失敗をしてその身に当然の報いを受けることになります。

「あなたの隣人を愛しなさい。」という神様の命令があります。その命令に心から従おうとするなら、そういう者には、人への配慮と知恵が備わります。自己中心から愛の思いに変えられることが人生の成功の鍵でもあります。また主の力をいただく鍵でもあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:22 ちょうどそこへ、ダビデの家来たちとヨアブが略奪から帰り、たくさんの分捕り物を持って来た。しかし、アブネルはヘブロンのダビデのもとにはいなかった。ダビデがアブネルを送り出し、もう安心して出て行っていたからである。

3:23 ヨアブと、彼とともにいた軍勢がみな帰って来たとき、「ネルの子アブネルが王のところに来たが、王がアブネルを送り出したので、彼は安心して出て行った」とヨアブに知らせる者があった。

3:24 ヨアブは王のところに来て言った。「何ということなされたのですか。ご覧ください。アブネルがあなたのところに来たのです。なぜ、彼を送り出して、出て行くままにされたのですか。」

3:25 あなたはネルの子アブネルのことをご存じのはずです。彼はあなたを惑わし、あなたの動静を探り、あなたのなさることを残らず知るために来たのです。」

3:26 ヨアブはダビデのもとを出てから使者を遣わし、アブネルの後を追わせ、彼をシラの井戸から連れ戻させた。しかし、ダビデはそのことを知らなかった。

3:27 アブネルはヘブロンに戻った。ヨアブは彼とひそかに話そうと、彼を門の内側に連れ込み、そこで彼の下腹を刺した。こうして、アブネルは、彼がヨアブの弟アサエルの血を流したことのゆえに死んだ。

3:28 後になって、ダビデはそのことを聞いて言った。「ネルの子アブネルの血については、私も私の王国も、【主】の前にとこしえまで潔白である。」

3:29 その血は、ヨアブの頭と彼の父の家の全員に降りかかるように。またヨアブの家には、漏出を病む者、皮膚をツアラアトに冒される者、糸巻きをつかむ者、剣で倒れる者、食に飢える者が絶えないように。」

3:30 ヨアブとその兄弟アビシャイがアブネルを殺したのは、アブネルが彼らの弟アサエルをギブオンでの戦いで殺したからであった。

3:31 ダビデは、ヨアブと彼とともにいたすべての兵に言った。「あなたがたの衣を引き裂き、粗布をまとい、アブネルの前で悼み悲しみなさい。」そして、ダビデ王は棺の後について行った。

3:32 彼らはアブネルをヘブロンに葬った。王はアブネルの墓で声をあげて泣き、民もみな泣いた。

3:33 王はアブネルのために哀歌を歌った。「愚か者が死ぬように、アブネルは死ななければならなかったのか。」

3:34 あなたの手足は縛られず、かせにもつなげられずに、不正な者の前に倒れるように、あなたは倒れてしまったのか。」民はみな、さらに続けて彼のために泣いた。

3:35 民はみな、まだ日のあるうちにダビデに食事をとらせようとしてやって来たが、ダビデはこう誓った。「もし私が、日の沈む前に、パンでもほかの何でも口にすることがあれば、神がこの私を幾重にも罰せられますように。」

3:36 民はみな、そのことを認めて、それで良いと思った。王のしたことはすべて、民を満足させた。

3:37 民はみな、そして全イスラエルは、その日、ネルの子アブネルを殺したのは、王

から出たことではないことを知った。

3:38 王は自分の家来たちに言った。「今日、イスラエルで一人の偉大な軍の将が倒れたのを知らないのか。」

3:39 この私は油注がれた王であるが、今日の私は無力だ。ツェルヤの子であるこれらの者たちは、私にとっては手ごわすぎる。【主】が、悪を行う者に、その悪にしたがって報いてくださるように。」

ツェルヤの子であるヨアブは個人的な恨みから、味方となった人を王の許しなく勝手に殺してしまいました。ヨアブはダビデの家臣ではありましたが、彼もまた自分の感情を主とした自己中心であったのです。人の霊的狀態は、その立場にはよらないことが分ります。ダビデは「ツェルヤの子らであるこれらの者たちは、私にとっては手ごわすぎる。主が、悪を行なう者には、その悪にしたがって報いてくださるように。」と言って、ツェルヤの子であるヨアブを警戒するようになりました。

(後にダビデとは信頼関係と緊張関係を共に併せ持つようになりました)
一方ダビデは赦しの人で、アブネルにも期待をかけていたのでその死を悼みました。主イエスの思いと共鳴するものです。

人を赦すことや信頼することには様々なことが絡んでくるものですが、信仰的には恨みや私情に流されずに、主の赦しを認めてその人に希望を見てあげることから始めるのが、主イエスに赦された者の、第一の選択肢です。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど) ②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど) ③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は抜こうとしておられますか) ④この世にあって何を実践しますか？